平成　26　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4094000033		
法人名	医療法人社団緑風会水戸病院		
事業所名	グループホーム水戸		
所在地	福岡県糟屋郡志免町志免東4丁目1番2号		
自己評価作成日	平成26年11月14日	評価結果確定日	平成26年12月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成26年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム水戸は福岡空港より車で20分程の位置にあり、アクセスが非常に便利です。医療：（医療法人社団緑風会水戸病院）介護：介護保険関連事業（居宅介護支援事業所・訪問介護ステ-ション・訪問看護ステーション）併設している。医療、介護面、安心して入居することができる施設です。理事長、前看護部長は長期にわたり、精神科医療に、地域を始め,貢献されている方で当グループホームを開設する。私自身も緑風会水戸病院認知症治療病棟に勤務の経験があり何時も自分自身に置き換え介護して行くようにしている家庭的なグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

母体医療法人の緑豊かな広い敷地内の一角にある4階建の2・3階に、グループホーム水戸は開所している。理念に「ゆっくり、一緒に、楽しみながらその人らしさを大切にした生活を送る」を掲げ、具体的な指針を定めている。地域医療機関の退院時の注意事項を実践して誤嚥防止したり、専門医療機関の受診は、適切な医療を受けられるように主治医の情報提供書を添えて支援している。また、定期的に訪問する傾聴ボランティアに運営推進会議の参加をお願いしたり、家族が参加しやすい時間帯に会議を開催するなど、透明性のある運営に努めている。今年度の家族交流会には25名もの家族が参加し、1年間の暮らしぶりを紹介したスライドショーは大変好評で、歴史のある母体医療法人のホームとして地域の信頼を得ながら、今後はさらなる地域交流も期待できる。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25,26,27）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20,40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38,39）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名　2F/グループホーム水戸

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的でゆっくり,いっしょに、自立した生活が出来る様、援助している。自分自身が入居したい、気持ちを忘れずに介護している。	「ゆっくり、一緒に、楽しみながらその人らしさを大切にした生活を送る」を理念に掲げ、指針を定めている。自宅での生活の延長を目指した活動やレクレーションを実施し、理念の具現化に努めている。	理念を実践するために、具体的内容を明記した方針を定めておられるので、全職員で共有する機会を設けていただけることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人、老人ホームの行事に参加している。	母体医療法人主催の恒例の春や秋のイベントは近隣の幼稚園児やボランテイアの参加があり地域交流の場になっている。病院実習生の訪問があったり、役場の保健師の実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成24年4月開設、私自身1年半ほど貢献までは至っていないので今後の課題としたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催している。施設の状況、入居者の状況を報告して意見交換を行い向上に努めている。	家族が参加しやすい時間帯に開催され、入居者や家族、地域代表、行政関係者、法人代表等が参加している。前回は、家族と他の入居者の交流に関する意見や肺炎の予防接種に関する情報を参加者から得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会、認知症ケア会議、同町内の施設の方、役場担当者の方と情報交換を行い、サービス向上に努めている。	地域包括支援センター主催の認知症ケア会議に施設長が参加している。状況に応じたケアを提供できる場を配慮することや、PTA等の若い世代が多く集まる場所で、認知症の理解や協力をお願いすることを提案している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	独歩不可の入居者様はソファー、自席、自室ベッドで過ごす様にして安全ベルトは最小限にしている。開放的なラウンジを利用している。	法人主催の研修に参加し、資料による研修をしたり、マニュアルを整備している。大腿骨頸部骨折で保存療法の入居者もあり、家族の同意を得て、車イスの安全ベルトを使用している。各ユニットの入り口はキーロックが使用され、職員が同伴で出入りしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	水戸病院、院内研修参加、常に自分に置き換えて介護している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人、院内研修に参加し精神保健福祉士、ケアマネと相談している。院内研修資料を各階においている。	入居時の充分な説明と、職員への周知を図っている。成年後見制度の活用者が1名あり、3か月毎の面会を通して後見人との良い関係つくりを支援している。日常生活自立支援事業の活用者はいない。	今後はさらに多様な家族状況も予測されるので、随時日常生活自立支援事業や成年後見制度を説明するためにも、パンフレット等の資料の整備をお願いします。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に納得いくまで説明して、一部を家族にわたしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会、家族交流会等で意見を交換し反映するようにしている。（意見交換箱の設置）	今年度の敬老会後の家族交流会には25名の家族が参加している。1年間の暮らしぶりを紹介したスライドショーは、家族に大変好評であった。また、定期的に訪問する傾聴ボランティアに運営推進会議への参加をお願いするなど、透明性のある運営に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課時に面接して新人者には随時声かけをし、意見を聞いている。	ユニット毎のミーティングでは、モニタリング結果を報告したり、人員増加や日々の献立表のCD作成に関する意見が出るなど、率直な意見交換が行われている。全体ミーティングも行われ、2ユニット合同の行事について話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面接を行い本人に合った労働時間等配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用時には、働きやすいように本人の希望を取り入れている。	法人で職員を採用し、32歳～70歳の幅広い年齢層の職員が就労している。法人内やユニットの異動もあり、法人として資格取得を支援し、広報紙にはお礼を述べる職員のコメントが掲載されている。今年度も介護支援専門員の試験を受けた職員もある。設けられた休息室で、交互に昼休みを取っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人の教育研修会に参加をし出席なかったスタッフには資料を見て周知させている。	法人主催の研修が定期的に開催され、個人情報保護について研修している。特に個人の映像や写真に関する情報の提供は必ず、家族の了解を得ている。慣れによる言葉づかい等は十分気を付けるように日常的に指導されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の教育研修会に参加をしてスタッフ間で話し合いをしている。（常に前向きな気持ちを忘れずスタッフ間で共有している）		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	認知症グループホーム協議会に所属し研修会等に出席している。法人院内研修に参加して常に介護の質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族、本人に情報を把握し、安心できるよう生活歴、趣味等を関わる時話しかけ関係づくりをしている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と入居時に不安等あると思われるので面会を勧め家族の表情等キャチして同席したりしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活支援専門員又精神保健福祉士と相談支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族、身近な人の情報を元に今まで置かれた状況把握してその人らしさを大切に支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に今まで通りの関係を築くようにするために面会に来られるよう何時までも利用者様と一緒と心がける会話及び支援に心がけるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、身近な人に、これまでの趣味や生活史を聞きながら途切れないよう支援している。	法事で帰宅したり、家族と外出する入居者もある。同じ宗派の訪問者があったり、隣人が来訪することもあり、馴染みの関係が継続するように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さま同士が一緒に過ごせるような活動を午前、午後、行っている。誕生日(毎月第一水曜日)。体育療法士(毎週火曜日午後)による運動を2階、3階合同で行っている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	各フロアーのケアマネが責任をもち必要に応じた対応を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、面会時等に、ご家族、本人の意向話している。	職員を担当制にしたり、センター方式のアセスメントシートを活用し、把握した各入居者の生活歴等の基本情報やできることを記録し、全職員による情報の共有に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族、身近な人に、今までの生活史、趣味等を見出す様にしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、バイタルサインを測定して身体の把握、精神症状の出現等を把握してしスタッフに伝達し、看護師に報告している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的及び必要に応じてケア会議を行、モニタリングを行っている。	ケアミーティングでモニタリング結果を話し合い、入居者や家族の意向に沿った介護計画の作成や見直しを行っている。地域医療機関退院時に解りやすく明記してもらった注意事項を実践し、誤嚥を防止している入居者もある。	介護の基本に沿ったケアは実践されているので、理念に記載された生活が具現化できる具体的な短期目標やケア内容の話し合いをお願いします。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアチェツク時に気づきを記入しスタッフ間で伝達のケア会議時見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に適したサービスが受けられるようケアマネ、居宅支援センターにも相談している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	心身の健康状態を把握しながら安心して生活が出来る様に認知症機能の維持に努めている。ケアマネ、居宅支援センター等連携している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の副院長が担当医で2階、3階と1週間毎に往診している。夜間等異常時は法人当直医に診察を依頼している。歯科も週1回往診している。	内科・歯科の定期的訪問診療を支援しているが、眼科や外科の医療機関受診は家族に同行をお願いしている。適切な医療を受けられるように専門医療機関受診の際は、主治医の情報提供書を添えて受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルを測定し身体状況変化時は常勤の看護師に連絡して身体の状況の観察、対処を図っている。異常時は法人の担当医に連絡受診している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人の担当医に連絡をして情報を交換し担当ナース、ケアマネ、地域連携室等とも連携している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、ご家族に説明、協力を得て、法人の担当医に連絡をして情報を交換し地域連携室等とも連携している。	重度化や終末期の場合は、母体医療機関や救急医療機関への搬送を予定している。現在、自分で食べることが出来なくなっているが、職員が口に食事を入れると嚥下できる入居者もあり、主治医は家族に今後の経過について説明している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人院内研修い参加して救急対応の研修を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の非常災害訓練を行い職員全体身につけている。法人へも連絡をし、協力を得て訓練を行っている。	消防車が3分で駆けつけることができるため、煙が出たらすぐに消防署や隣接する医療機関に連絡すること、非常階段に入居者を誘導しやすいように、夜勤帯は椅子を机に入れておき、避難経路を確保することなどが、消防署からアドバイスされている。おむつ等の衛生用品を備蓄している。	3日間分の飲料水や食料等の備蓄を検討し、賞味期限等を明記した備蓄台帳の整備をお願いします。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個々の人格を早く把握してその場その場に適した介護をしている（入浴等は一人でスタッフが見守り、出来ない事を支援している）利用者様によっては身振り、手振り等で支援している。	入居者の生活歴や心身の状況に応じた声かけや対応を日々実践している。調査員が居室を見せていただく際は、施設長は入居者に声をかけて、承諾を得ていた。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えをゆっくり聞き何を一番してもらいたいかを聞き出すよにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくり、いっしょに、その人のペ-スに合わせた関わりを大切にして残存機能の維持に努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい、入浴後の衣類等は希望の衣類を準備を一緒に行い、散髪時は自分の気持ちを入れてもらうようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に出来る方は野菜等に仕分けなど行い準備等している。（テーブル拭き、野菜の皮むき等）	入居者に食前の挨拶をお願いし、職員は入居者と同じ食事を同じテーブルで摂りながら、見守りや声かけをしている。各自のペースでゆっくりと完食する入居者が多く、「ここは食事が美味しいので誰も残さないよ」と囁く入居者もあった。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	午前(10時)お茶、午後(3時)お茶、おやつタイムにして好む物を購入している。入浴後冷たいお茶、排尿間隔が遠い人、微熱時等スポーツドリンクを提供している。3ケ月毎採血を行い担当医に診察依頼している。体重測定(毎月)		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを促し,自力で出来ない方は口腔ケアーを行い、歯科往診もしている。食事前に口腔体操を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	車椅子使用者でも立位可能者はトイレ誘導を行い自立への支援を行っている。	トイレでの排泄を重視した支援でおむつ使用量が少なくなり、家族から感謝されている。車イス対応が可能な広いトイレが2ケ所設置され、トイレでの排泄を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食べ物、ヨーグルト、乳製品、フルーツを付ける工夫をしている。又歩行訓練等を心がけている。(便秘時は看護師に報告緩下剤使用等)		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者個々に合わせたゆっくり誘導、着脱,洗体、洗髪、の支援している。希望時入浴支援している。	三方から介助できる個浴槽が設置されている。入浴を億劫がる入居者が多いが、浴槽に入ると、気持ち良いと話す入居者がほとんどである。時間をおいて声かけをしたり、他の職員が声をかけるなどの工夫で、入浴を支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた睡眠パターンを把握し、生活リズムつくりを行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の内服薬は医師の指示通り服薬支援している。作用、副作用、用法、用量はスタッフに周知徹底させている(個々の内服薬一覧表確認)。症状変化は看護師に報告記録している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々の役割、清掃、洗濯たたみ等個々に適した支援をしている(カラオケ1Fにてラウンジ4F散歩)		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の支援を行っている。行事の中にバスハイクを春、秋に取り入れている。本人希望時はご家族にもお願いしている。	年間行事計画に沿って花見などのバスハイクに出かけたり、隣接する医療法人主催の春・秋のイベントに参加したり、4階のラウンジ周辺を散歩したりしている。	法人敷地は広く、紅葉の木々や桜並木も整備されているので、日常的な外出として、散歩を楽しまれることを期待します。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院売店等に行く時に支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙に希望時は支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアーの入口には出窓があり季節感ある置物を置いている。地熱空調設備があり、リビングにはテレビ、ソファーを設置し自由に過ごせるよう配置している。加湿器、空気清浄器を設置している。	2・3階に各ユニットが設けられている。入口からT字型に個室が設けられ、中央の広く明るい共用空間の一角には大型テレビやソファー、対面式厨房の前には机や椅子が置かれている。両側の掃き出し戸からは、物干し場や非常階段が見え、開放的な空間になっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は各個室で自由に出入りできて、ソファーは自由に利用できる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、衣装ダンスは備え付けの物を利用している。希望時は本人,ご家族に相談している。（枕,寝間着、装飾品等）	馴染みのある野菜の絵と氏名がかかれた表札がかけられた居室は、広く車いすでも自由に出入りできる。家族からのメッセージや写真が飾られ寛ぎやすい生活空間としての工夫がされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者個々の身体状況、,癖等を把握して適した支援をしている。（見守りながら、いっしょに、その人のペースに合わせたケア）		